



移乗サポートロボット HUG T1-02

株式会社FUJI

“機器を使って立つ”移乗をサポート



■移乗サポートロボットHugの概要

株式会社FUJIは、経済産業省・AMEDが行う「ロボット介護機器開発・導入促進事業」の採択を通じ、介護従事者の負担軽減をするための機器「移乗サポートロボットHug」を開発しました。立ち上がるのが難しくなった高齢者がベッドから車椅子やトイレへ移動する際の、乗り換え動作(移乗)を助けます。

移乗の際、高齢者はHugへ寄りかかり、介護者は「たつ」ボタンを押すことで、立ち上がりの動作が行えます。

Hug T1-02は、開発当初のコンセプトを踏襲しながら設計を一新することで、高齢者・介護者ともに、より受け入れやすい製品となりました。

介護者の負担軽減だけでなく、高齢者がより自立度の高い生活を送るための支援機器としても活用できます。

■介護現場での実用性

①高齢者の持っている力を使う、維持する

Hugは前傾を誘導し、胸部を支えながら臀部を浮かせる方式で立ち上がりを支援します。2軸のモータが協調動作をすることにより、胸部を支えた保持部が人の立ち上がる軌跡を描きます。Hugでの立ち上がりは、人が立ち上がるのと同様の動作で、足裏へ重心が移動します。介護者の声掛けとともに、機器を使って「立つ」ことを意識し、動作に参加することができます。

②負担軽減と意識の変化

力仕事をHugに任せることで、抱えあげる負荷はなくなり、介護者はケアに注力できます。高齢者の視点では、「介護者に持ち上げられる」ことから「機器を使って立つ」こととなり、また介護者に対しても「持ち上げてくれる人」から「ケアをする人」へ意識が変わります。介護者に身体負担をかけてしまうことを気にして移動を遠慮してしまうということが解消されます。

③トイレでの排泄介助に使いやすい

立った姿勢を維持しながら、ズボン着脱やお尻を拭いたり、おむつを替えたりする排泄介助が容易に行えます。小型で軽量のた

め、女性でもトイレ内で楽に取り回しができます。便座に座った後、Hugに寄りかかったまま排泄をすることで、腹圧がかかり排泄がしやすくなります。

④操作、手順が少ない

操作は「たつ」「すわる」のボタン動作に簡略化され、ロボットを意識せず簡単に使っていただける機器となっています。介護施設への導入・定着がしやすく、業務を妨げることなく手早く効率的に介助ができます。在宅介護をするご家族の方には、機器の使い方に悩むことなくご使用いただけます。

⑤転倒リスクの低減

介護者の技術や体力によらずHugは一定の動きで安定して抱え上げが行え、転倒などのリスクが低減されます。ゆっくり下ろすことができるため、圧迫骨折のリスクも低減されます。

■導入と普及

販売開始よりHug T1-02は約200台、シリーズ累計では1000台以上の導入実績があります。

人ひとりを持ち上げて他のところへ移動し、排泄介助を行うのは大変に身体負担の高い作業です。介護する方の負担が軽減されることはもちろんのこと、介護される高齢者が長く快適に過ごすことができるよう、より多くの場面に導入され活用されることを期待しています。



トイレでの使用例

